

# 千葉の園芸

発行所 千葉市中央区市場町1-1  
公益社団法人千葉県園芸協会  
連絡先 043(223)3005  
発行日 毎月1日  
令和5年1月号



## 令和5年の新春を迎えて

公益社団法人千葉県園芸協会  
理事長 江波戸 一治

明けましておめでとうございます。

皆様には、輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、会員の皆様には、日頃、当協会の業務運営に多大なる御尽力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年は、世界情勢の不安定化による資源やエネルギー価格の世界的な高騰に加え、国内では急速な円安の進行により、肥料・資材・燃料価格が大幅に上昇し、農業経営は大きなダメージを受けています。

また、資源高や円安等に端を発した物価の高騰により、消費者の財布の紐は更に固くなり、農業を取り巻く情勢は、生産・消費の両面で大変厳しい状況となっています。

このような難局に立ち向かっていくためには、千葉県農業の高い潜在能力を生かし、生産者、JA、行政機関、関係団体が一丸となって、生産力と販売力の強化に取り組んでいく必要があります。

園芸協会では、本県主要野菜の生産力・販売力の強化を図るため、オール千葉による産地間連携を更に推し進め、全力を挙げて取り組んでまいります。

具体的には、さつまいも、ねぎ、トマト、

にんじんの重点4品目については、要となるJAの担当部長に「品目別協議会」の部会長になって頂き、規格の統一やプロモーション等の効果的な実施に加え、産地目線からの新たな取組も検討し、実施してまいります。

また、農地中間管理事業では、地域計画として法定化された「人・農地プラン」に基づき、今後も意欲ある担い手への農地集積を推進し、地域農業の将来を担う経営体の育成に力を注いでまいります。

そのほか、種苗生産事業や野菜価格補償事業等の生産対策、新規就農支援事業や6次産業化推進事業等の担い手対策にも責任をもって取り組み、農業者の経営安定と所得向上に努めてまいります。

関係者の皆様には、当協会のこうした取組に対し、本年もより一層の御支援と御協力をお願い申し上げます。

昨年の暮れは、サッカーワールドカップで、日本が強豪国のドイツ、スペインを逆転で下し、日本国中が明るい話題で大いに盛り上がりました。令和5年がサッカーに引き続き、明るく希望の持てる年になることを祈念するとともに、皆様方の御健勝と御活躍をお祈り申し上げ、年頭の御挨拶とさせていただきます。

流通情報



## 卸売業者と連携した 秋冬野菜のプロモーション

千葉県農林水産部流通販売課

首都圏マーケティングセンター 副主査 飯生 智久

流通販売課首都圏マーケティングセンターでは、令和4年11月～12月にかけて、JA全農ちば、卸売会社の協力のもと、秋冬野菜の出回り時期に合わせた県産農産物のプロモーション活動を実施し、首都圏量販店198店でフェアを展開しました。

流通販売課首都圏マーケティングセンターでは、JA全農ちば、卸売会社と連携し、首都圏における県産農産物の魅力発信と販売拠点の確保・拡大を目的に、販売促進月間（6月、9月、11月、2月）を中心に、「千葉県フェア」を実施しています。



令和4年11月から12月にかけて、首都圏量販店において、県産農産物の継続した売場の確保を目的とし、「ちばが旬！みんな大好きちばの味フェア（秋冬）」と銘打った販売促進活動を198店（延べ日数333日、12月末現在）で展開しました。

フェアでは、店舗において集中陳列を実施し、ポスター、スイングポップといった販促資材を使用した陳列棚の装飾、販売促進員による販促資材の配布等、産地PR、レシピの紹介等を行いました。

一昨年からのコロナ禍においては、冬季にかけて感染者数が増加していることから、感染拡大状況によっては、試食を中止せざるを得ない状況下での実施となりました。

令和4年度に入り、夏頃から試食を再開する店舗も出てきたことから、卸売会社、量販店と協議の上で、試食可能な店舗では、販売促進員による試食販売を実施しました。今回は8店舗で、旬を迎えたキャベツ、根菜類を使ったスープを提供する試食販売を実施し、県産農産物をアピールしました。



今後とも、より多くの消費者及び流通関係者に、県産農産物のファンになっていただけるよう、販促資材の作製、メニューの提案、チーバくんを活用した告知等を併用し、県産農産物の魅力発信と量販店での新たな売場確保のためにフェアを開催していきます。

頑張る産地



## ～いすみの野山でしごとづくり～ 枝物・草花栽培講座の取組

夷隅農業事務所 改良普及課  
普及指導員 内藤 千陽

遊休農地の有効活用や新たな園芸品目づくりを進めるため「枝物・草花栽培講座」を開講しています。「枝物って面白そう」「草花栽培を始めてみたい」等々、興味を持った方々の参加が増えてきています。枝物・草花栽培講座のこれまでの歩みを御紹介します。

### 1 取組の背景

花き業界では、季節感・自然な雰囲気を出せる「枝物」「草花」の人気の高まっています。枝物はユーカリやハナモモなどの花木の切り枝、草花はスキヤリ草などの花材を指します。

枝物・草花は収穫物が軽量で高齢者でも取り組めること、鳥獣害が少ないこと、作業労働時間が他の品目と比較して短いなどのメリットがあります。これらのメリットに着目して、夷隅地域での新たな園芸品目づくりへの挑戦として「枝物・草花栽培講座」を開講しています。

### 2 枝物・草花栽培講座について

本講座は既存の農業者への提案だけではなく、一般の市町民を対象に、受講者の発掘・栽培者の育成を目的に開講しています。令和2年度に受講者募集チラシを夷隅郡市2市2町の広報とJAいすみの広報誌に掲載したところ、17名の参加があり、受講者からも「持て余している土地でやってみたい」等々、前向きな反応を得ることができました。



「実践編」では枝物品目の展示ほど、樹姿を見ながら枝物栽培を学んでいます。

令和3年度からは、受講者が枝物と草花を知り、興味を持つための「入門編」と、枝物・草花を実際に

栽培し、出荷するまでの技術・ノウハウを学ぶ「実践編」に分けて開講しています。

また、本講座では近年市場需要が伸びていて、夷隅地域の気象・土壌条件に適すると考えられた枝物3品目（アメリカリョウブ、コバノズイナ、ヒュウガミズキ）と草花1品目（パンパスグラス）を「推奨品目」に位置付けました。この「推奨品目」の栽培技術や挿し木による増殖技術等の調査を当事務所で行い、得られた知見を本講座で紹介することで現地普及を進めています。



パンパスグラス 卸売市場への初出荷

推奨品目の中でも、パンパスグラスはいち早く植栽が進んでおり、今シーズンは受講生3名が初収穫・初出荷しました。出荷に際しては、地元JAと荷姿や荷受方法等の調整を図り、卸売市場への出荷を行い、高い評価を受けました。

### 3 むすびに

「こんな値段で売れるんだ」「来年の出荷が楽しみ」など、受講生はもちろん関係機関からも枝物・草花栽培への前向きな意見が聞かれるようになってきました。今後も本講座を通じて、栽培者の発掘・育成と栽培技術の確立を進めながら、枝物・草花の産地化を進めていきたいと思っています。

野菜ニュース



## 園芸用パイプハウスの自力施工に係る研修会を開催

千葉県農林水産部生産振興課  
園芸振興室 副主査 峰島 恒

県と JA 全農ちばでは、令和元年度に発生した台風などの気象災害による被害の経験を踏まえ、災害発生時の早期復旧ができるよう、園芸用パイプハウスの自力施工に係る研修会を開催しました。本年度は約 37 名の参加があり、座学や実技を通じて自力施工に係る技術習得が図られました。

### 1 取組背景と概要

本県農業は、令和元年に発生した台風 15 号や 19 号、10 月下旬の強風・大雨により、過去に類を見ない大きな被害を受けました。中でも、育苗や生産、貯蔵等で幅広く利用される園芸用パイプハウスについては、北総台地や南部地域を中心に県全域で大きな被害があったところです。県では、被災農業施設等復旧支援事業を中心に再建に向けた支援を行いました。工事が集中することにより、復旧までに相当の期間を要する事態が発生しました。

そこで県では、JA 全農ちばと連携し、早期の営農再開の一助とすることを目的に「園芸用パイプハウスの自力施工に係る研修会」を開催しています。本研修会では、園芸用パイプハウスの自力施工に係る手法やポイントを理解することで生産者個人の自力施工の技術習得を図るとともに、習得した知識や技術等を各産地に持ち帰ることで地域単位での災害への備えと災害発生後の早期再建の推進を目的としています。また、開催にあたっては、県内全域の生産者が参加できるように地域ごとに日程を分けて複数回（令和4年度は 11 月 29 日、12 月 5 日の 2 回）実施するとともに、円滑な技術習得に向けて、講義だけでなく実際に資材に触れて施工を行う実技についても併せて行っています。

### 2 研修会

講師は JA 全農ちば及び資材メーカーが担当し、まずは県から国庫事業の紹介をしたほか、JA 全農ちばが作成したマニュアルを基にした説明、必要となる工具や資材に加え、施工の全体概要や具体的な作業手順、注意点等について説明がありました。

実技においては、直角を確保するための「地どり」やアーチパイプの埋め込み・接続、被覆資材の展張に向けた各種資材の設置など、施工にあたって必要な項目を確認しながら、講師の指導のもと、作業を

行いました。また、ハウスの補強方法について、補強モデルを用いて紹介しました。

研修会全体では、生産者を始めとした 37 名の参加があり、「手順や方法を学ぶことができ良かった」「初めて見る工具もあった」といった意見が寄せられたことから、自力施工に対する関心が伺えました。

県と JA 全農ちばでは、今後も園芸用パイプハウスの自力施工や補強に係る取組を推進することで、災害に強い産地づくりに取り組んでいきます。



11月29日開催（成田市）  
会場：JA 全農千葉県本部営農技術センター



12月5日開催（東金市）  
会場：千葉県立農業大学校油井農場



## 農作業事故体験VRで安全対策を啓発

千葉県農業者総合支援センター 主査 藤城 圭輔  
(千葉県農林水産部担い手支援課)

千葉県農業者総合支援センターでは、「農作業事故体験VR（バーチャルリアリティ：仮想現実）」を活用して、農業者や農業を学ぶ生徒などに、農作業における安全対策の重要性を啓発しています。

### 1 農作業死亡事故の状況

農林水産省によると、令和2年の農作業事故死亡者数は270人で就業人口10万人当たりの事故死亡者数は10.8人となり、危険と思われがちな建設業の5.2人の2倍以上となっています。農作業死亡事故を要因別にみると、「乗用型トラクター」に係る事故が81人で死亡事故全体の30%を占め、「歩行型トラクター」26人、「農用運搬車（軽トラ含む）」15人となっています。また、この状況を踏まえると、死亡に至らない農作業事故は1年間に70,000件、1日あたりでは190件ほど発生していると推測されています。

### 2 千葉県農業者総合支援センターの取組

このような事故を一つでも無くしようと、千葉県農業者総合支援センターでは、JA共済連が運用する「農作業事故体験VR（バーチャルリアリティ：仮想現実）」を活用した研修会を実施し、農作業における安全対策の重要性を啓発しています。この研修では、VRゴーグルにより、実際には存在しない空間でのリアルな農作業事故を疑似体験することで、事故は他人事では無く、自分のこととして考える契機としています。その上で、体験した事故の要因を分析し、その対策を学習する動画を併せて視聴することで、安全対策の必要性と重要性を伝えています。



リアルな映像での疑似体験

農作業事故体験ができるVR動画は、以下の7つです。

- ①乗用型トラクター 転倒編
- ②耕うん機 後進作業編
- ③コンバイン 巻き込まれ編
- ④スピードスプレーヤー 挟まれ編
- ⑤刈払機 刃との接触編
- ⑥脚立 転落編
- ⑦農用運搬機 転倒・積み降ろし作業編

令和2年度から、農業事務所が主催する各種セミナーや農協の生産部会の研修会、農業機械展示会をはじめ、県立農業大学校や農業高校での授業等で実施し、令和4年10月時点でその体験者は1,000名を超えました。



農作業事故体験VRを活用した授業

本研修会の開催についてのお問い合わせは、千葉県農業者総合支援センターまで御連絡ください（機器の日程調整のため、開催の1か月以上前に御相談ください）。

問合せ先電話番号：0800-800-1944

また、研修会で使用しているVR動画は、学習動画と共にYouTubeの「JA共済公式チャンネル」でスマートフォンでも御覧いただけます。この動画を見ながら家族や従業員と農作業安全対策について、今一度話し合みましょう。



## 房総ジビエフェア2023を開催します！

千葉県農林水産部流通販売課

県では、野生鳥獣対策の一環として、県内で捕獲され、県内に13か所ある食肉処理加工施設で適切に処理・加工されたイノシシやシカの肉を「房総ジビエ」と銘打ち、消費拡大を図っています。

この度、房総ジビエのおいしさを多くの皆様に味わっていただき、更なる房総ジビエの消費拡大を図るため、「房総ジビエフェア2023」を開催します。

フェア参加店舗では、令和5年1月11日に開催される「第5回房総ジビエコンテスト」で千葉県知事賞や農林水産部長賞を受賞した作品をはじめ、房総ジビエを使用した多彩な料理が食べられます。また、フェア期間中、参加店舗で房総ジビエ料理を召し上がり、応募した方の中から、抽選で100名様に県産品などが当たるプレゼント企画を実施します。これを機会に、是非房総ジビエを御賞味ください。

参加店舗の詳細や対象料理については、下記のURL又は二次元コードから「房総ジビエ特設サイト」にアクセスし、御覧ください。

URL： <https://bosogibier.com>

開催期間

令和5年1月20日（金）から

令和5年2月28日（火）まで

※店舗により料理の提供期間は異なります。



二次元コード



### 第4回房総ジビエコンテスト (令和3年度実施)



最優秀賞（千葉県知事賞）  
「鹿肉のラザニア」



優秀賞（千葉県農林水産部長賞）  
「猪キーマピザ  
～Wild Boar Keema curry pizza～」

## 第71回関東東海花の展覧会の開催

千葉県農林水産部生産振興課

関東東海花の展覧会は、千葉県を含む関東東海1都11県の生産者が育てた自慢の切花や鉢花など約2,000点が集まる、日本で最大規模の伝統ある花の展覧会です。千葉県からは、約200点が出品予定です。是非御来場ください。

主催 第71回関東東海花の展覧会実行委員会

【構成団体：関東東海1都11県及び全国花き関連6団体】

会期 (一般公開・入場無料)

令和5年1月27日（金）～29日（日）

(公開時間) 1月27日（金）13:00～18:00（最終入場17:30）

1月28日（土）10:00～18:00（最終入場17:30）

1月29日（日）11:00～15:00（最終入場14:30）※

※最終日は出品物即売会のみ

会場 サンシャインシティ文化会館 2階 展示ホールD  
(東京都豊島区東池袋3-1-4)

内容 花き品評会、フラワーデザインコンテスト、花の装飾展示、園芸教室（フラワーアレンジメント教室等）、出品物即売会など

問合せ 千葉県生産振興課園芸振興室

電話 043-223-2871



第69回 展覧会会場

※ 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、1月29日の即売会の入場には整理券が必要となります。整理券は当日の午前9時から配布します。